『もりおかの短歌』春の部

〈一般部門〉　優秀賞十首

もりおかの
ござ九の裏の柳の木
彼岸を過ぎてほんのり緑

盛岡市　鈴木　充

祖父の顔岩手山かよ
堂々と教えてくれた
生きてる力

新潟県北蒲原郡　加藤　愛理

土手の草浅葱採りてくれる人
盛岡の春
持ちて来たり

盛岡市　堀米　公子

今の世を
もう解らぬと嘆きつつ
読み返したり「一握の砂」

盛岡市　赤坂　昌信

古都の風そよぐ城趾に
啄木を偲びて
歌碑を心に刻む

盛岡市　河野　康夫

満開の春の空から
不来方の城跡に降る
桃色の雨

盛岡市　菅原　茉理奈

蕨出る季節が来れば
胸よぎる
外山節の歌のセリフが

盛岡市　西川　政勝

烏帽子岩（えぼしいわ）
母（はは）と見（み）し日（ひ）ははろかなり
また咲（さ）く桜（さくら） ひとり来（き）たれど

花巻市　千田　正平

君（きみ）のすむこの街（まち）が好（す）き
盛岡（もりおか）は恋（こい）が生（うま）れる
青春（せいしゅん）の街（まち）

花巻市　安部　勝衛

冠雪（かんせつ）の岩手山（いわてさん）みて盛岡（もりおか）に
来（き）たぜとつぶやく
旅（たび）のはじまり

東京都大田区　井田　正美

『もりおかの短歌』春の部

〈ジュニア部門〉　優秀賞

（応募時、中学生以下に限る）

該当なし

【講評】

長かったコロナから解放され、日常を取り戻した私たちは、新鮮な気持ちで春を迎えた。そしてさわやかな風を受け、日光を胸いっぱいに吸い、外に飛び出しました。この日を待ちわびていたかのようにアサツキ、ワラビが出、それらを採って食べられるほど元気が復活し、桜の花も喜びの目で眺め、雨も、雪も美しく優しく感ぜられる。そんな素敵な作品ばかりだった。今回、歌選びをさせて頂いているうちに、無意識のうちにそうした盛岡の日常の中のときめきを私は探していたのだろう。おそらく啄木だったらそうしたにちがいない。

令和六年六月選　春の部

投稿数　七十九　首

選者　山本　玲子